

2016年入試 関高・合格体験記

東大を筆頭に、国公立大学現役合格者110名。

国公立大学現役合格率40%は中濃地区トップ。

関高校では、受験対策はもちろん、部活動も、学校行事も、SGHも、すべてが充実しています。でも、自分に全部こなせるのか、不安を感じる人もいるのではないのでしょうか。

学校の勉強って難しい？ 高校生活ってどんな感じ？

部活と勉強は両立できる？ 大学はどうやって決める？

今春の合格者が何を考え、どのように栄冠を勝ち取ったか。

関高校をめざす皆さんに一挙公開です。

東京大学文科Ⅲ類 佐藤 太一（富野中学校）

誰でも「これはなぜだろう？」「あれはなんだろう？」と疑問に持つことは必ずあり、納得する答えが見つかり「なるほど！」と感動することがあるだろう。私の高校3年間の勉強のテーマは自力で答えを見つけ出し、その感動を大切にすることだった。

私は高1の最初の頃から受験勉強という単語に対して、塾や予備校で夜遅くまで勉強する、休みの日も図書館や自習室でひたすら勉強、辛い、苦しいというネガティブなイメージを持っていた。だから最初は東大を目指そうとは思わなかった。が、ある1人の友達のおかげで決心がついた。

その子とは英語上達のためにインターネットでペンパルを探しているときに知り合った。香港に住んでいるという。テレビ通話や手紙のやりとりを重ねていく中で、勉強に関する話題になると彼女は無邪気にその楽しさを語ってくれた。そんな話を聞いているうちに、自分もまだやれるんじゃないかという気分になってきた。また、東大の教養学部や進振りという制度にも惹かれ、とりあえずここを目指してみようと決心した。（ちなみにその彼女からはカリフォルニア大学サンディエゴ校に合格した、と連絡があった。合格啦、恭喜恭喜！）

東大の過去問はやはり難しく、入試本番まで完答できることはなかなかなかった。東大の問題は私立大学の物知りクイズとは違い、基礎しか問われることはない。（アドミッション・ポリシーに書いてある。）それが本当に難しかったが、同時に本当に楽しかった。こんな楽しい経験ができたから、合格とかどうでもいいやと思ったこともあった。受験生としては失格かもしれないが。

最後に。センター試験直前にこんな記事を見つけた。

<http://www.asahi.com/articles/ASHCG7J2WHCDUSPT00W.html>

ロボットがマーク模試で偏差値 57.8 に達したという。記憶力や計算力では機械に敵わない。暗記して勉強した気分になっている人たちはやがて淘汰されていくのではないだろうかと思う。

東京学芸大学教育学部多文化共生教育コース 坂田 結衣（小金田中学校）

私は東京学芸大学教育学部の多文化共生教育コースに前期で合格しました。第一志望を貫き合格することができて、達成感でいっぱいです。参考までに私が受験生活の中で感じたことを書こうと思います。

・大学のリサーチについて

先生方が常々仰っていることですが、大学について調べることはとても大切なことです。早めに調べて対策をすれば、その分勉強の目処が立てやすいと思います。私自身、3年生の初めまで志望大学が定まらず、リサーチが遅れたために後悔する部分もありました。自分の受ける大学について知ることは、学習を進める上で重要だと思います。

・生活リズムについて

私は吹奏楽部に所属しており、毎日7時半から朝練がありました。そのため5時半に起床し7時前には家を出るという習慣が身に付いていたので、引退後もそれを継続し、SHRが始まるまでの1時間に集中して勉強するようにしていました。早朝の空気は爽やかで気分もスッキリするので、朝勉強は非常におすすめです。また、夜は9時まで勉強し11時までには寝ていました。センター試験は朝から始まります。夜型の人は今から朝型にシフトしていくといいと思います。

・息抜きについて

3年生になると、ほとんどの授業が演習になります。5日間のすべての授業に全力で取り組むと、土日にどうしても疲れが出ると思います。私は、日曜日は休息デーと決めて、あまり勉強しないようにしていました。個人的に、日曜に勉強しないことで焦りが生じ、自然と翌日からの学習意欲が湧き勉強に精を出すことができたので、休息デーを設けてよかったと思っています。息抜き無しの受験勉強に嫌気がさした人、よかったら試してみてください。

私は3年生の9月まで部活をしていました。吹奏楽部に入部したときから、夏のコンクールまで残ると決意していたので、それなりの覚悟を持って部活を続けました。強い信念があれば、必ず第一志望に合格できると思います。どうか勉強を理由に部活を諦めないで下さい。何事も精一杯やり切った人に道は開けます。皆さんの健闘を祈っています。

首都大学東京都市教養学部法学系 大雲 菜々子（美濃中学校）

これから私が大学受験を経験して思ったことを素直に書いていくので、もしよかったら参考にしてください。

私が大学受験においてまず大切だと感じたことは、大学をよく調べることです。その大学にはどんな学部があって何が学べるのか、どのような場所にあるのか、また学生生活はどうか…などの情報は、待っているだけでは入ってきません。自分からインターネットなどを活用して調べるといいと思います。

大学を調べるときには、同時に入試方法や入試科目も調べたほうが良いです。センターと二次試験の比率も学部学科によって異なることが多いので、知っておくべきでしょう。こういったことを知っておくと、自分の行きたい大学に入るためにまず自分が重点的にやらなければいけないことが明確に見えてきます。また、ひとつやふたつの大学を調べて満足するのではなく、出来るだけ多くの大学、入試方法を知っておいたほうが有利になります。こうして選択肢を増やしておくことで、センター後の出願で悩む時間も少しは短縮できると思います。

あと、滑り止めとなる大学を受験する場合は、もしここに入学することになっても頑張れそうだ。と思える大学を選んでください。出願したからには少しでもその大学へ行く可能性が出てくるので、滑り止めだからといって適当に選ぶと後悔します。

勉強以外で大事だと思ったことはこんな感じです。

肝心の勉強方法については、私が文系なので、文系の3教科についてセンター対策中心に語らせてもらいます。

【英語】何よりも英単語が大切だと思います。英単語は一度単語帳を完璧に覚えても、すこしサボるとどんどん抜けていきます。まだ本番まで時間はあると思うので、少しずつ毎日やったほうが忘れにくく、効率も良いです。長文については、学校のセンター対策の教材と過去問をやればセンター試験は十分戦えると思います。しかし、冬休みに長文を解くことをサボってしまうと、読むスピードが格段に落ちてしまう（私はこれでセンター英語過去最低点とりました）ので、毎日読むことをお勧めします。

【国語】現代文より古文漢文を優先して勉強するべきです！古文漢文はやればやった分だけ伸びます。古文は、まず

学校の単語帳を1冊覚えてください。助動詞の活用や接続、識別の方法などもたぶん単語帳の最後のほうに書いてあると思うので、とにかくまるまる1冊覚えてください。単語と助動詞を覚えればセンターレベルの古文ならだいたい意味が分かるようになると思います。しかし、わたしはセンター直前に覚えればいいやって思ってたので、なんでもっと早く覚えなかったんだって後悔しました。ぜひ早いうちに覚えちゃってください。もし早い段階で覚えることができ、余裕ができたなら、古典常識なども頭に入れておくといいかもしれません。

漢文は、基礎的な構文、漢字の読みと意味を大切にしていれば解けると思います。Gakkenの「漢文早覚え速答法」という参考書が役立つのでもしよかったら手にとってみてください。

【社会】社会の日本史や世界史は、特に学校の授業を大切にしてください。先生が授業で言ったことは忘れないくらいのもりで聞いてください。歴史は流れをつかむことが出来れば解けます。まずはおおまかな流れをつかんで、それから詳しい年代、年号を覚えるといいと思います。また、年号は完璧には覚えなくてもいいですが、重要な年号だけは語呂合わせで覚えると飛躍的に点数が伸びました。

最後に、友達と受験の話や勉強の話をしてください。情報交換をすることでお互いにモチベーションを高めあうことができます。それと、友達と勉強すると、一人でやるよりもやった内容が記憶に残ります。私たちは休み時間や放課後に問題を出し合っていました。いつもの会話の延長でやるので楽しく受験勉強できるし、気分転換にもなりますよ。

受験がんばってください、応援しています。

山梨大学生命環境学部観光政策科学特別コース 森 真由香（緑ヶ丘中学校）

受験を終えた今思い返してみれば、私が本当に受験生をやっていたのは3年生の夏休みが終わるところからだったと思います。1, 2年生の頃は与えられていた課題しかやらず、テストがあるから勉強をやり、3年生になってからも受験生のように受験生になりきれていませんでした。そんな私にとって、受験は長くとても辛いものでした。あまり学べることはないかもしれませんが少しでもお役に立てたら幸いです。

まず始めに、志望校が決まっていない人はいろいろな大学を調べてみてください。私が山梨大学を受験することに決めたのはセンター試験が終わってからでした。それまで一度も山梨大学について調べたことはなく、担任の先生に勧められるまでどんな大学でどんな学部があるのか全く知りませんでした。しかし、調べてみると文系の中でも文理融合であることや、私がやりたいことに近いものが学べることなど、とても魅力的な大学であることがわかりました。今、学びたいことがないから行く大学を決められないと思っている人は少しでも興味のある事や職業などから見つけていけるといいと思います。とにかく目標がなければやる気も起きません。いろいろなことに興味をもち少しでも気になったら調べてみてください。

勉強面では、冒頭にも書いた通り、1・2年生の頃はやらなければならないからやるだけでした。しかし、その中でも数学にはこだわりを持って取り組みました。私は、解けない問題があると、一人で解けるようになるまでやらないと気が済まないタイプでしたので、すぐに解答を見ないで、教科書などを使いできるだけ自分の力で解くようにしていました。その甲斐もあって、数学は得意科目になっていました。しかし、苦手で嫌いであった英語はいつまでたっても成績が伸びる気配がありませんでした。そこで、苦手意識をもたないようにして、単語・文法・イディオムなど本当に基礎的なことから始めました。すると長文も読めるようになり、「読めるとこんなに楽しいんだ！」と思うようになりました。そしてセンター試験で一番良い点の取れた教科にまでなりました。苦手だと自分で決めないで挑戦してみてください。可能性を広げるのは自分です。

最後に勉強は習慣です。もっと早く習慣づけられていたらなあと思います。これを読んでいる皆さんにはまだ時間があります。できるだけ勉強を習慣づけ規則正しい生活をしてください。夜型よりも朝方のほうがおススメです。夜型だと、昼間眠くなって樹朝中に寝てしまう子を何人も見ました。授業に集中するためにも睡眠はしっかりとってください。また、学校は勉強する環境がすごく整っています。学校にいる時間を無駄にすることなく有効に使ってください。

私が合格できたのは、最後まで支えてくださった先生方や家族、友人がいたからだだと思います。ともに支えあい、時に競い合って、仲間と切磋琢磨して少しずつでも合格に近づくように頑張ってください。合格に近道はないと思います。

辛くても最後まで駆け抜けてください。応援しています。

静岡大学工学部電子物質学科 佐藤 崇正（富野中学校）

僕が受験を終えて思ったことが、少しでもみなさんの参考になればと思い、これを書きます。

一つ目は得意科目をもつことです。僕は3年生になるまで得意科目と呼べるものはありませんでした。3年生になってから先生から「得意科目をもったほうがいい」と言われて、僕は化学を得意科目にしようと思い、科学の勉強量を少し増やしたところ、それは僕にとってしっかりとした武器になってくれました。なので、すでに得意科目のある人はそれを伸ばし、ない人はどの科目でもいいので作って伸ばせばよいと思っています。

二つ目は部活動を最後までやりきるということです。正直に言うと僕は何回か練習がきつくてやめようかと思いました。しかし、ここでやめたらこの先もつらいことから逃げてしまうのではないかと思い、最後までやり切りました。それに部活動を通して友達もできたし、楽しいこともたくさんあり、勉強でふさぎこむこともありませんでした。部活を続けて損することはないと思うので、最後までやり切ることをおすすめします。

三つ目は計画をしっかり立てることです。これはいつからセンター試験の勉強をするのかということです。学校でもセンター対策がありますが、自分でいつから始めるということを決めておけば、みんなが始めていた時に焦るということもなくなり、少しは心に余裕が持てます。また、3年の冬休みはセンターの勉強のみに絞るのがよいと思います。

以上が、僕が受験をして思ったことです。つらい1年になるとは思いますが、頑張っけて乗り切ってください。

富山大学芸術文化学部建築デザインコース 山田 晃寿（美濃中学校）

僕が受験において大切だと思ったことを書いていきます。

1. 友人の存在

僕は英語がとても苦手でした。高校に入った時はbe動詞も分からないくらいで、そんな時僕に教えてくれたのは周りにいる友人でした。ていねいに嫌気もなく教えてくれたのは今でも良く覚えています。僕は一方的に支えてもらっていたのですが、みなさんには支え合い高め合うことの出来る友人関係を築くことを大切にしたいです。

2. 自分の勉強の仕方

これは人によって様々なのでなんとも言えないんですが誰々がこうだからこうしようっていうのはやめた方がいいです。自分に合った勉強の仕方を見つけることが大切だと思います。僕の場合、勉強する時間でいうと夜より朝の方が勉強に集中できたので朝を中心にやっていました。それとあまり補習は取らなかったです。自分が納得する前に話が進んで理解が追いつかなくなってしまうのが嫌だったので自分で勉強していました。

あと授業はちゃんと聞いていました。家で勉強したくなかったので勉強しなくてもいいように聞いていました。これは結構おすすめです。

3. やる気

結局はやる気なんですけど、僕は試験日が近づけば勝手にやる気も出るだろうと思っていたんですが逆にやる気はなくなっていきましたね。もう今からやっても遅いわって。だから自分にへんに期待しないほうがいいです。

最後に僕が一番大切だと思う時期は夏休みです。ここで頑張れた人は強いです。

金沢大学人間社会学域経済学類 房前 恵梨子（富野中学校）

私はセンター試験で目標点数に達することが出来ず、元々目指していた大学とは違う大学を受験しました。結果的に行きたい大学に行くことが出来たことは本当に嬉しかったですが、それまで一度も見に行かなかった大学を受験することはなかなかイメージがわからず不安な点もありました。広い視野でいろいろな大学を見ておくことも大切だと思います。私は受験を通して一発勝負の怖さを感じると同時に、ひたすらに努力することの大切さを学びました。今回の経験を私なりに伝えたいと思います。

まずは、早い段階から勉強の習慣を身につけることです。1, 2年生の頃は言われてもなかなか実行に移すのは簡単ではないかもしれません。私もこのことを痛感したのは3年生になってからです。しかし、今私が言えることはとにかくコツコツとやり続けることが受験の成功に繋がるということです。古典単語や英単語などの小テストはとりあえず受かれば良いと思っているとすぐに忘れてしまいます。面倒くさいと思うかもしれませんが、頭に入れようとするだけで変わってくると思うので日々の学習を大切にしてください。

次に、学校や先生をとことん利用することです。私は2年生の後半からほぼ毎日自習室に通って勉強していました。勉強しやすい場所は人によって違うと思いますが、私は塾に通っていませんでした。困ったら先生にすぐ聞きに行ける自習室は私にとってとても良い環境でした。また、数学が苦手だった私は先生と問題のやりとりをし、マンツーマンで教えていただきました。自分の出来なさにへこむことも多かったですが、あの日々がなかったら私は合格出来ていなかったと思うので先生には本当に感謝しています。皆さんも信頼できる先生を見つけて遠慮なく頼ってみてください。

最後に、諦めない気持ちの大切さです。私は3年の秋頃になっても元々の志望校の判定がDかEで正直やはり下げべきかと何度も考えました。しかし結果的に下げることにしてもセンターが終わるまでは目指し続けようと思い、二次対策を続けました。最初に言った通りセンター後に志望校を変更しましたが、上を目指していたことで二次の力がついていたと思います。また、それからは気持ちを切り替え、金沢大学に絶対受かってやる！という強い気持ちでひたすらに勉強しました。そのとき励みになったのは同じ大学を目指す友人の存在です。補習やOTRで共に頑張る友人の姿を見て、私も諦めずに頑張ろうと思えました。勉強以外でも、休み時間にいろいろな話をしたことは息抜きになりました。受験は自分との戦いですが、仲間と助け合うことも大切です。

正直受験は大変です。しかしこれを乗り越えなければ自分の未来はつかめません。こんなに必死に勉強することはもうないかもしれません。受験が終わったときにやりきったと思えるくらいにがむしゃらに立ち向かって下さい。

長々と書いてきましたが、少しでも私の経験が参考になれば嬉しいです。いつも支えてくれた家族、仲間、先生方には感謝しかありません。皆さんの夢の実現を祈っています。

名古屋大学法学部 可児 盛明（郡南中学校）

『弱さ』

一年間、浪人をしました。学んだことは『自分の弱さ』、これに尽きます。

浪人生活は予想よりずっときついものでした。勉強漬けの単調な毎日、自由故に多い誘惑、思うように伸びない成績、大学生活を送る仲間とのギャップ etc... 様々な葛藤がありました。モチベーションの浮き沈みが激しく、深刻になると、受験生としての志どうこうの問題を超えて、自分の人としての方向性を見失ったような感覚に陥りました。先生や友達と対話する機会が減り、部活動や行事がなかった影響でしょう。『結局人はまわりの人間との関係の中でしか自分を確立できないこと』に気付くと同時に、『自分の1人の人間としての弱さ』を痛感しました。

少し話が重くなってしまいましたが、僕が感じたことを読んで、こんな薄暗い浪人経験したくない！くらいに受け止めて、自分は絶対現役合格する！と少しばかりやる気を出してくれたら十分です。ただ、その程度に差こそあれ、受験に対して苦しみを覚え、自分の弱さに直面し、やられてしまう痛みは貴方たち誰もが味わうことでしょう。勉強が嫌になってしまった、サボってしまった・・・そこから勝負です。なにをきっかけに、どんな風に、どのくらいのはやさで、また覚悟を決めてやりはじめるか。そしてこのポイントに受験の難しさと価値があるように思います。己の弱さに向き合う姿勢は、その人の生き方に直結するからです。しかし僕が貴方の生き方や思想を変えることはできませんから、ここでは、くじけた後立ち上がるきっかけとなりそうなものを挙げることにします。

- ・大学を実際に見に行く

勉強内容や試験データの文字や数字で頭がいっぱいになると目標も具体的に強く意識されません。実際に大学を見てスケールを体感すると、やる気と同時に現実感も増します。

- ・勉強場所を変える

飽き、マンネリ化は勉強の大敵です。場所を変え、勉強を続けながらも気分転換を図りましょう。僕の場合、カフェや

ファミレス等は、知らない人の視線が意識されて案外気が引き締まりました。

・質より量

なんでもいいからやったほうが良いという感覚は取り掛かるハードルを下げてください。やる気ないけど適当に教科書音読するくらいはやってやろうという気持ちです。量の後にしか質は生まれません。

・ルールを決めておく(自分以外の人と)

楽しい強制力が欲しい。月金は単語帳百ページを範囲にA君と口答テストし、不合格やサボりはお菓子を奢る等のルールで勉強をする状況に自分を縛ること。遊びを勉強に取り入れましょう。

・仲間と喋る

自分がダメな時はまわりに頼る。上に述べましたが、まわりによって自分は方向づけられます。雑談ただけで、その後はなんとなく自分の気分が変わっていたりするべきことがわかっていたりします。

・現実逃避に飽きるまで現実逃避する

どうしようもないとき。「しょもない」「なにカッコつけたこと言ってるんだ」「ただの綺麗事だ」とあらゆることをマイナスにとらえてしまうとき。一日中やりたいことを思いっきりするか、なにもしないで寝ましょう。ただ次の朝からは頑張れるように、枕元に得意科目の教材を置いて眠ること。

最後に、己の弱さに気づき、痛みを味わう。そこから貴方の成長がはじまることを心に留めてください。

名古屋大学教育学部 石原 潤 (桜ヶ丘中学校)

はじめに

家からの距離だけで進学先として選んだ関高校でしたが、関高校に入学して一番良かったと思うことは良い出会いがたくさんできたことだと感じます。仲間や先生たちとの出会い、そして関わりが僕に大きな影響、刺激を与えてくれたおかげで今の自分があるように思います。名古屋大学に合格できたのも恵まれた環境中で集中して学習できたからだと思います。志望校合格を目指し切磋琢磨し僕が学習する意欲を与えてくれた仲間たちや、わかりやすい授業や、進路指導、添削指導等で僕を導いてくださった先生方にはほんとに感謝しています。3年間ありがとうございました。受験を終え、特にこの1年を振り返り、受験についての3つのことについて書こうと思います。

目標設定

僕の第一志望校は京都大学でした。志望理由は仲の良かった友達と一緒に難関を目指そうとしたからであり、特に大きな意味があったわけではなかったです。勉強を頑張るきっかけがほしかったからでした。志望理由はちゃんとしたものがあったほうがいいでしょうが、大事なのは実現するために行動することではないかと思います。一見無謀にも思える目標でしたが、今思えば高い目標であったために現状に満足することなく上を目指して頑張れるモチベーションになり、結果として京都大学を受験することはできませんでしたが、名古屋大学合格につながったと思います。

→高い目標設定をし、実現するために行動する。最後まで目標を下げない。

勉強法

学校から出される週末課題などの課題や、自分の苦手克服のための勉強、人によっては塾から出される宿題など、やらなくてはいけないことがたくさんある。さらに、部活や学校行事など勉強以外にもやりたいことがたくさんあって時間にそれほど余裕がないのが高校生の現状でしょう。そんな中で学校の授業を大切に、真剣に取り組んで欲しいと思います。授業で習った新しい知識を、繰り返し問題演習をすることで定着させることが志望校合格への近道だと思います。理解し、わかることで満足せず、いつでもできるように定着させる。そのために必要な問題演習などの時間は人それぞれですが、得意科目も苦手科目でもひとつひとつの内容を定着させることで基礎をしっかりと築くことが大切だと思います。また、解答を採点するのは大学の先生であり、大学によって規準が違うと思うので自分の解答を客観視するために学校の先生に添削をお願いしたり、同じ大学を志望する仲間が集まって互いに添削をしあったりするのがいいでしょう。

→学校の授業を真剣に受ける。問題演習を繰り返し行い知識を定着させる。
解答を客観視するために添削指導を受ける。

モチベーション維持

1年間ないしそれ以上の間モチベーションを高く維持することは難しく、僕にとって1番の問題がモチベーション維持でした。勉強するモチベーションを高めてくれたのは、周りの仲間の存在であり、志望する大学の先輩の存在でした。

おのおの悩みや不安がある中で、互いに励まし合い、笑いあえる仲間がいたことや、自分の経験からアドバイスや、相談ののってくださった先輩がいたことで、嫌になり投げ出しそうになっても諦めず最後までやってこれたと思います。受験は1人で試験に臨むけれど、自分1人じゃないと思えたことが1番の心の支えになっていたと思います。また、模試の結果に一喜一憂することで、モチベーションを維持することも方法の1つだと思いますが、あまりお勧めはできません。模試は今の自分を客観的に知るための1つの指標であり、模試結果の判定を見ることが目的ではなく、できないことを知りテスト反省を丁寧にすることで次はできるようにすることが模試の効果的な活用方法だと思います。模試の判定をあまり気にしすぎる必要はないように感じます。

→辛く不安な時こそ周りを見る。周りのたくさん人の存在が頑張る原動力になる。

模試結果に一喜一憂しすぎない。模試をうまく活用する。

最後に

合格発表で自分の合格がわかったとき、これで受験が終わったんだという達成感と、どこか喪失感を感じました。それほど自分にとって大きなものであり、いろいろ考え、ときに喜び、苦しみられたものであったのだと思います。想像していたよりもはるかに楽なものではなかったのが受験であり、もう2度と経験したいとは思わないくらいです。これから受験を経験する後輩のみなさんいろいろな思いを抱き、自分の理想と現実と葛藤することになると思いますが、そんなときに、僕の書いた内容が前に進むための参考の一つとなれば幸いです。受験を経験することで、今まで気づかなかった家族、仲間、先生などの存在の大きさに気づくことができるでしょう。後輩のみなさんの健闘と成功を祈っています。

名古屋大学文学部 山口 桃（旭ヶ丘中学校）

受験を終えて感じたことを3つ書きます。月並みなことになるかもしれませんが、繰り返し言われることは真実だからこそ繰り返し言われるのだと思って読んでください。

①部活はなんの障害にもならない

私は剣道部に所属していました。環境やメンバーに恵まれ、努力の結果、団体戦で1年生の時からの悲願であった東海大会出場を果たすことが出来ました。そのため、他の運動部の子よりも1ヶ月ほど引退が遅れ、勉強モードに切り替わるクラスの子を横目に部活に行く日々が続きました。しかし、やりたいことがやれているのだから、不安も焦りも感じませんでした。むしろ長く部活が出来ることが誇らしかったです。部活はできる時にとことんやるべきです。大切なのは切り替えと心の余裕。部活で得る経験と仲間はきっとその先の自信につながります。つらくなったらとりあえず仲間と笑いましょう。

②目標は高く

センター試験3日後まで、私の第一志望校は名大ではありませんでした。センターの得点率がかんばしくなく、河合塾やベネッセからの判定を見て悩みに悩んだ結果、2年生の頃から目指してきた大学を諦めるという決断をしました。第一志望に行くためにしてきたそれまでの勉強を思い出すととても悔しかったし、下げたからには絶対に受からなければいけないとプレッシャーを感じた時もありました。しかし、今思い返すと、それまで上の大学を目指してきたからこそ名古屋に合格することが出来たという面も少なからずあるのではないかと思います。勿論自分が行きたい大学に行けるのが最高です。でも、自分には少し厳しいかもしれないと思う大学を目標にした勉強は、もしその大学に行けなくてもきっと未来の選択肢を増やしてくれると思います。

③周りの人を大切に

同じ大学を目指して一緒に勉強した友達、たまに会って声をかけ合った部活仲間、同じ授業や模試を乗り越えたクラスメイト、応援してくれた後輩、二次対策で毎日のように英語や国語や日本史の添削をしてくださったり、数学を見てくださった先生方、様々な面で支えてくれた家族などたくさんの人にお世話になった受験でした。1人では到底乗り越えられませんでした。本当に感謝しています。自分の将来を決めるという点で、受験を乗り越えると精神的に成長できると思います。

後輩のみなさんの成功を祈っています。ありがとうございました。

名古屋大学工学部化学・生物工学科 松井 開（旭ヶ丘中学校）

僕は受験のための勉強が好きではありませんでした。家では勉強する気が起こらず、勉強するための環境が整っているところでないとなかなか勉強できませんでした。僕ほどでなくともなかなか勉強する気になれないという人はいると思います。そこでそういう人たちは実際に僕がとった解決策を紹介するので試してみてください。

まず1つ目には取ることのできる補習は全部取ることです。

僕は最初から家では勉強しないダメな奴だということを自分で分かっていたので土曜講座や夏休みの補習、over the rainbow I 期 II 期の自分に必要なものはすべて取りました。こうすることで学校に行く必要のない日でも必ず学校に来ることになり必ず勉強することになります。

2つ目は放課後など時間があればなるべく自習室を利用することです。周りが皆勉強しているので自習室で勉強できないなんて言う人はいないと思います。

3つ目は学校が開いている限りは休みの日でも学校に行くことです。僕の場合は3年の夏休みは平日毎日学校に行きました。8時半から17時まで昼食時を除いてほぼずっと自習室にいました。

以上3つ書きましたがとにかく自分が勉強しやすいような環境を作ることが大事です。

話は変わりますが、受験を乗り切るうえで大切だと感じたことが1つあります。それは息抜きをしっかりとすることです。受験勉強はつらいです。いやになることも何度もあります。そこで正常な精神状態を保つには必ず息抜きをしなくてはなりません。僕の場合はほとんど家で勉強していなかったのに息抜きは十分でしたがとにかく何か見つけてたまには息抜きをしてください。ここに書いてあることが役に立てばうれしいです。皆さんの希望が現実になること期待しています。

名古屋工業大学工学部電気機械工学科 大西 達也（旭ヶ丘中学校）

受験生としての1年と、それまでの2年間のことについて少しでもみなさんの力になればいいなと思い、いくつか書かせてもらいます。

・「継続」すること

みなさんは毎週ある英単語や古文単語の小テストが終わったらそのままにしていますか？それでは意味がありません。週1回でもいいので復習すると記憶の定着が全然変わってきます。英語や古典の点数が伸びない人はこのように基礎からやってみると点数が伸びてくると思います。

・定期テスト、模試を大切にすること

この時期になると、よく先生方から入試までもう1年、2年しかないと言われますよね？でも、なかなか実感がないと思います。僕もそうでした。センター演習が始まってやっと実感が湧いてきました。その実感のないなかで、勉強のモチベーションをできるだけ高く保つために定期テストや模試を大切にしてください。大きな目標を達成するには途中に小さな目標を立てることが必要です。大学合格を大きな目標とすると、定期テストや模試は小さな目標です。小さな目標を達成しようとする自然にモチベーションを保てると思います。

・諦めないこと

これがみなさんに一番伝えなかったことです。

某マンガで「諦めたらそこで試合終了ですよ」という名言がありますね。本当にそうだと受験を通して身に染みて感じました。僕は前期も後期も同じ学校同じ学科を受けました。センター試験の成績は前期でA判定が出たので二次試験は余裕を持って受けたつもりでした。しかし予想以上に出来が悪く、落ちてしまいました。A判定でまさか落ちるとは思っていなかったのにショックはかなり大きかったです。でも、終わったことは仕方ないと割り切り後期の勉強を続けました。正直後期で受かるのはキツイと思っていましたが、諦めずに最後までやり抜いた結果、合格を手に入れることが出来ました。諦めなかったから掴めた合格だと思っています。

みなさんも諦めずに入試をやり切ってください。

南山大学法学部 間宮 聖太（美濃加茂西中学校）

僕が関高で過ごした3年間の中で本気で勉強に費やした時間は、ハッキリ言えば半年もありません。先生方には言えない話ですが、半年というかセンター前は少ししかやってないし、本気でスイッチが入ったのはセンター後でした。みなさんはこんな風にセンターまで少ししか勉強しないということはしないでくださいよ。

センター前を含めると約3ヶ月ですが、その期間に何をしていたか、何を考えていたのかをみなさんに『参考程度』に教えられたらと思っています。

注:丸呑みにはしないでください。見る必要が無いと思ったら次のページにどうぞ。

1. 楽観視

僕は学校のテストはあれだったので校内では下位層で頭が良いというわけではなかったのですが、全国偏差値は(理社を除いて)50を普通に超えていたのでそこまで思い詰めてはいませんでした。(志望校はE判定でしたけど)

そういう性格と言ってしまうえばおわりですけど、あまり模試の結果だとかテストの結果に落胆しなくても良いと思います。本番は受験なのでそこで良い点をとれば良いだけですから。

もちろん反省は必要ですよ。

2. 数学の力

僕に関しては、理社が壊滅的だったので尚更数学は頑張ったのですが数学は理社と違って一問一答タイプじゃないので何か書けば点は貰えます。その分気が楽でした。

センター前からずっと数学だけはやっていたので本番では数学が僕の合格のキー科目になったと思います。理社でとれるならそっちでとって良いと思います。差をつけるなら国英よりも数理社です。

3. 目標

僕がセンター前に勉強を始めた理由は、私立入試をセンター利用で受かって遊びたかったからです。(これも先生方には言えません)

こんな些細なことでもいいです。目標の有無はやる気に大きく影響するので、「~大学に合格したい」よりはもっと具体的な方がいいですがそこはみなさんの自由にしてください。

ちなみにセンターは大失敗したのでセンター利用は全落ちです。最後まで遊ばませんでした。

この3つは僕が勉強する上で大切にしました。これは一個人の意見に過ぎないのであくまで参考ですが、今校内で下位だとかE判定だとかいう人も安心してください。

やれば受かります。

僕以上の時間の使い方が下手な頭の悪い人は後輩にはいないと思っているのでみなさんは志望校をゲットしちゃってください。

岐阜大学医学部医学科 玉田 真穂（緑ヶ丘中学校）

この受験を通して学んだ事を、勉強面と精神面に分けて書きます。参考にして頂ければ幸いです。

まずは勉強面について。皆さんは一回一回の授業を大切に受けていますか。問題が解けない自分から解ける自分になるためには、授業を大切に受ける事が一番効果的だと思います。センター試験や入試は授業から出されると言っても過言ではありません。実際私は授業を丸ごと覚えるぐらいの気持ちで毎日を過ごしました。授業が終わると大切なのは自習です。行き当たりばったりで勉強すると、穴や苦手を残してしまい、安定した得点に繋がりません。教科に偏りのない計画を立てることが重要です。私は手帳にその日に達成すべき内容を書き、終わるたびに線で消していきました。線だらけの手帳を見返していると、自分の努力が目に見えるため自信になりますし、何より楽しいです。一度やってみて下さい。ただし、勉強法というのは自分に合う合わないがありますから、自分の勉強方法を見つけ出すのがいいと思います。以上、勉強面について書きましたが、一番大事なのはとにかく勉強することです。この一年間、寝るか食べるか勉強するかしかなかったです。

次に精神面についてです。「あきらめるな」とよく言われますが、正直辛かったです。勉強しても成績が上がらない。一方で周りの人はどんどん伸びていくように思える。そして、医学部と自分との間にかかなりの距離があるという現実。嫌になって医学部を諦めようと何度も思いました。でも先生に宣言したから、ここでやめたら顔合わせできないなと思ってここまで来ました。受験は心理戦でもありますから、皆さんも困難に会うかもしれません。そんなときは先生を頼るべきです。自分の思いを口にしたり、話を聞くことで、精神的に強くなれます。

センター試験の自己採点をして、医学部は無理だと思いましたが、最後に思う存分やってみようという気で受けたら合格でした。今でも信じられません。受験は受けてみないと分からないものです。諦めないことは簡単なことではありませんが、「辛い時は進んでいる証拠」だと思ってあきらめないで下さい。

最後に、先生方のおかげで合格することができました。迷惑ばかりかけましたが、本当にありがとうございました。

岐阜大学地域科学部 岩原 愛梨（下有知中学校）

大学受験を終えて私が感じたことを書きたいと思います。

学習面において、文系も理系も避けて通れないのが英語です。毎週毎週ある小テスト、やっているときはキツイですが後から絶対に役に立ちます。単語帳や文法集を完璧にするぞ！という勢いで頑張ってください。

私は文系だったので日本史についても書いておこうと思います。私は日本史が1番苦手でした。よく日本史(世界史、政経、現社も含め)は伸びると言われますが、私はセンター演習の時期になっても大体30、40点台でその話が信じられませんでした。しかし、毎回解説をしっかり読み、先生の解説を聞き、やり直しを繰り返したところ本当に本番ではなんと70点まで上げることができました。ですが、間違いが多すぎると時間がとてもかかります。センター前はただでさえ時間がないと感じるので皆さんには早め早めに取り組むことを勧めます。

また、私立大学の試験問題によってほとんどマーク、マークと記述が半々など違いがあります。自分の得意、不得意があると思うのでに受けるつもり大学の赤本を早めに見てみるのがよいと思います。

私は、志望校の判定が3年間D判定で、先輩方が書いた合格体験記を読んだとき「私がこれを書くことは絶対ないだろうな〜」と思っていたので合格体験記を頼まれ、今これを書いているのがとても不思議な気分です。

受験期はつらいですが、諦めずにやりきることはきっとこれからの人生を支えてくれると思います。

目標に向かって頑張ってください。

岐阜大学教育学部学校教育教員養成課程(国語) 矢田 幸穂（武芸川中学校）

合格体験記を書いてみました。以下、乱文長文失礼します。1年次、数学の前期末考査で再試、そして再試だけに留まらず補充。驚くことに同じ年の後期中間考査でも全く同じ誤ちを繰り返す。3年次、前期の成績、数IAで8、数IIBで9。後期の成績、数IAで9、数IIBで8。後期末考査の数IA、97点。これは私の成績です。上記の情報だけ見ると、全くの数学素人が2年間のうちにまるで数学マスターにでも変貌したかのよう。では、そのカラクリはどこにあるのか。結論から言えば、私の本番、つまりセンター試験の数学得点率は200点中半分も満たしませんでした。つまり、私は数学マスターなどになったわけではなく魔法の成績アップ術もないということです。何が言いたいのか、それは数学は基礎力=得点力だということ。

一番大切にしなければならないことは、日々の授業、そして宿題を欠かさず完璧にこなすこと、そして1年の履修過程をまともにこなすことです。私は、受験勉強は3年で頑張ればよい、多少直前になっても学力はつく、という言葉たちをなんの根拠もなく信じていました。自惚れていたわけです。数学があまり好きではないと言い訳をつけ、授業も寝ていたり、提出物もいつも後回し、全くもって怠けていました。しかし、1年の終わり数学の先生に指導を受け、心を入れ替えた私は、その時から提出物は期限内に出し、毎日の宿題は欠かさずこなし、授業は絶対に寝ませんでした。その努力の甲斐あり、定期考査の点数は格段に上がりましたが、不思議なことに実力テストやチャートテストは全くと言っていいほど変わりませんでした。

私は徐々に、自分の基礎力のなさに気づき始めました。なぜ基礎力がないのか、それは1年次の授業を疎かにしたからです。数学のすべての鍵は1年次の授業、そして定期考査勉強、つまり基礎力の定着作業をいち早く始めることにあるのです。あとから取り繕って崩壊を留めても、内部がカスカスでは歯が立ちません。数学はそういう教科です。基礎がそのままセンター得点力なのです。

もうひとつ私が数学のセンター試験で得点できなかった理由は、3年の夏にあります。3年の夏、私は暗記科目ばかりに取り組みました。暗記科目は比較的后から取り組んでも差し障りありません。それは、暗記科目は覚えた側から忘れるからです。

私は世界史選択でしたが、どうにも苦手で、模試や演習でも得点が伸び悩みました。色々な学習方を試しましたが、どれも目立った成果を出せず、半分諦めていました。しかし、それでも、例え不器用でも、前日まで世界史に取り組みました。結果は、今までにない自己最高得点を記録できました。

逆に生物基礎の例を挙げれば、夏休みに問題集を一冊と過去問集一冊こなした結果、休み明けの模試で1ミスでした。しかし、それ以降どんどん模試の得点率が下がってゆき、結局センターでも平均点しかとれませんでした。その経過途中で食い止めようと新しい問題集を一冊こなしましたが、あまり成果を上げられず、せいぜいブレーキがかかった程度です。つまり、3年の夏休みにやるべきこと。それは数英国の基礎力定着に努めることです。私が夏休みに数学の基礎力定着に取り組まなかったこと、それがセンター惨敗を助長したのだと思います。長々と書きましたが、一番大切なこと、それは自惚れず、毎日の授業、提出物、定期考査を最も大切にすることです。頑張ってください。

岐阜県立看護大学看護学部看護学科 遠藤 愛梨（旭ヶ丘中学校）

私が受験勉強を始めたのは、部活を引退した高校3年生の5月からです。それまでの約2年間は、課題テストや小テストの勉強をするだけでした。そんな私が受験生として約1年間過ごして、大切だと思ったことを書こうと思います。

・受験は団体戦

この言葉はよく聞くとおもいます。受験生としての1年を終え、その通りだと思いました。私は部活動引退後、毎日放課後は友達と自習室や進路指導室前の次週スペースで勉強しました。土日や夏休みは図書館を利用し、図書館にいる友達と分からないところを教え合いながら、互いに高めていくことができました。もちろん勉強するのは自分自身ですが、周りの人たちが頑張っていると、自分ももっと頑張ろうと思えるため、友達の存在はとても大きかったです。

・最後まで諦めない

私は受験勉強を始めて数か月が経っても、今までの模試の結果と変わりがなく、国公立大学は無理かなと思ってしまった時もありました。しかし、最後まで諦めず勉強に取り組みました。これから先、なかなか思うように点数が伸びなくても、志望校に向かって、まずは自分のすべきことを懸命に取り組んでほしいです。

最後に、看護学部志望の人に伝えておきたいことを書きます。ほとんどの看護学部の大学の2次試験には面接があります。2次試験の前に、面接のある看護専門学校などを受けて、面接に慣れることも大切なことだと思います。私は2次試験の前に看護専門学校を受験し、面接をしたため、大学の2次試験は緊張せずに面接官と話すことができました。また、第一志望でなくても、2次試験に小論文がある大学を受ける可能性がある人は、小論文講座や小論文模試を受けることをお勧めします。

部活動や行事、勉強などを最後まで一生懸命取り組み、充実した高校生活を送ってください。そして、皆さんが自分の進路を実現出来ることを願っています。

滋賀大学教育学部学校教育教員養成課程(文系型) 太田 千智（桜ヶ丘中学校）

私が受験を終えてみなさんにアドバイスしたいことは2つです。

1 部活との両立

放課後部活を終えて帰ってきてご飯を食べた後、疲れてしまって眠たくなってしまいます。気づいたら時間がないから…と言って結局勉強しない、なんてことはありませんか。もちろん長時間勉強することも大事です。でも、忙しく

て時間のない人は短時間でも集中して取り組めば良いと思います。チリも積もれば山となります。大切なことは毎日勉強を続けることです。部活で忙しくても、せめて次の日の予習、そして英単語や古文単語は毎日やるといいでしょう。また、部活も最後まで続けてほしいです。部活でつけた根性は勉強に活かされると思います。

2 苦手教科への取り組み

私は日本史が苦手でした。センター1、2か月前の模試でも点数がとても低くて、諦めかけていました。全体の5教科で見てもやはり日本史が足を引っ張っていました。全体を上げるには日本史をあげるしかない、と思い必死に勉強しました。間に合わないかもしれない、出来ないかもしれない、そんな不安を持ちながらもやれるとこまでやろうと一生懸命取り組みました。昔やった模試をひっぱり出してきてもう一度解いて、解説をじっくり読みました。また、教科書にペンで線を引くだけでなく、たくさん書き込んだりまとめたり、付箋を貼ったりなど、自分だけの教科書に仕上げボロボロになるまで使い込みました。結果、良い点数が取れました。良い点を取ったことというより、諦めずに頑張れたことによって自信がつき、そのまま二次試験に向けても頑張ることができました。でも、今思うともう少し早く勉強を始めるべきだったなあとと思います。より早く始めればもっと伸びると思います。だからみなさんには早めに苦手教科を克服してほしいです。苦手だから捨てるなんて言うてはいられません。苦手だからやるのです。まだまだ間に合います。

辛いこともあると思います。そんな時は自分の夢を再確認してみてください。きっと力が湧いてくると思います。1番の原動力は自分の夢だと思います。自信を持って頑張ってください。みなさんの活躍を期待しています。

滋賀大学教育学部学校教育教員養成課程(体育) 古屋 拓真(昭和中学校)

僕は体育学部など二次試験で実技が必要となる学部を目指す人たちに、伝えたいと思います。僕はずっと体育学部を目指して勉強してきました。ただ各大学の実技試験の内容や高校の時の部活動の実績がなかったことから、志望校もたくさん迷いました。その中で岐阜大学を目指していましたが、やはり実績もなかった僕が合格するためには、勉強で差をつけなければならないと思い、センター試験の結果で少しでも差がついた滋賀大学で勝負しようと思いました。

滋賀大学の実技にも野球はなく、やったことのない二種目で勝負しなければなりません。さらに、滋賀大学の出願倍率が18倍という高倍率でもあったため、正直最初は諦めかけていました。しかしながら、やったことのない実技で戦うために、多くの仲間が練習を手伝ってくれました。体育の先生方にも指導をして頂き、場所が使える時は毎日練習しました。そしてその合間に試験科目である英語の勉強を並行して行っていました。毎日過ごしているうちに倍率のことなどは全く考えないようになっていき、とにかく合格できるように頑張りました。

練習ですべてが出来たわけではありませんでしたが、とにかく本番では自己ベストを目指して頑張りました。すると練習では考えられないような結果を残すことができました。その結果、野球部でありながら、陸上とバスケットという種目を選んだ自分自身が合格出来ました。

この合格から、僕は多くのことを学びました。

その中から、後輩のみなさんに大切にしてほしいことは三つあります。

一つ目は、簡単に志望校を変えないことです。倍率や二次試験の内容などは全く気にする必要ありません。高倍率だからという理由や、苦手な科目があるからという理由で志望校を諦めるということはもったいないです。本当に行きたい大学があるなら、どんなに困難な状況でも絶対に挑戦すべきです。簡単に志望校を諦めるようなことはしてほしくないと感じました。

二つ目は、周りで支えてくれる仲間や先生方の大切さです。僕の場合は特別ですが、バスケの練習などは仲間がいなかったらきっと無理だったと思います。そして指導して下さった先生がいなかったら合格はできませんでした。みんなが支えてくれたから、合格できたと思います。だからこそ、いまのうちから仲間をたくさん作って、先生たちともたくさんコミュニケーションをとったりして、少しでも受験に生かしてほしいと感じました。

そして三つ目は、自分の力を信じて最後まで頑張りを続けてほしいです。受験勉強中は必ず、このままで良いのだろうか、本当に大丈夫なのだろうか、不安になるときがあります。しかしそんな時も、自分がやってきた事を信じて頑張りを続けてほしいと思います。

僕のように、体育学部を目指している人だけでなく、そうではない後輩のみなさんの今後の受験勉強に少しでも生かされれば嬉しいです。

部活をやっている人は、今しかできない部活を引退までは全力で取り組めば良いと思います。その中で少しずつ学力をつけていけば、十分間に合うと思います。支えてもらう人たちへの感謝を忘れず、夢に向かって、頑張ってください。応援しています。

滋賀県立大学人間文化学部人間関係学科 長沼 明里（双葉中学校）

私は、第一志望である大学に合格することができました。この1年間を振り返り「小テストを大切にする」「模試の判定を気にしない」など皆さんが既に知っていること以外で、私がしてきたことを3つ紹介したいと思います。少しでも参考になれば嬉しいです。

1 『同じ生活を繰り返す』

受験生になったばかりの4月、何かからすれば良いのか分からない私が、まず始めたことは「平日5時間・休日10時間勉強する」でした。しかし、これは「あと〇時間・・・」と時間ばかり気にしてしまい、目標時間を達成できないことが、かえってストレスになってしまいました。

そこで方針を変え、新たに「起きる時間」「勉強を始める時間」「寝る時間」の3つを決めました。例えば平日の場合、6時半までに起床、8時前には登校し朝勉強、放課後学校に残り勉強、家に帰って7時半までに勉強を再開、11時半までに就寝としました（時間は大体で大丈夫です）。

このメリットは、毎日続けることで勉強する習慣が付き、さらに休憩する時間、お風呂に入る時間など他の時間も自然と決まるということです。受験勉強は長く辛いこともあるけれど、慣れればゴールまで突き進むことができます。

2 『手放す』

何かを得るためには、何かを手放すことが大切です。自分のやりたい事を全部していたら、1・2年の時と何も変わりません。私は、この1年間「テレビ」「ツイッター」「漫画」の今まで余暇時間を占めていた3つを手放しました。「少しだけなら・・・」と思って、結局今まで通りテレビを見て後悔するくらいなら、全部やめた方が良かったからです。

その代わり、毎月少なくとも1つ「楽しみ」を作りました。友達とランチや買い物したり、一日だけテレビや漫画もオッケーにしました。メリハリをつけることで、勉強のモチベーションが上がり頑張ることができました。

3 『効率の良い暗記方法』

周りの友達の暗記方法を見ると、基本「目で追う」「書く」のどちらかです。私のオススメは、この「読む・書く」の2つに「話す」を加えることです。「目で覚える」「声を出して耳で覚える」「手を動かして覚える」の体全体を使う暗記方法は、後になっても忘れにくいものになります。

もう一つのポイントは「時間を置いて繰り返し勉強する」ことです。私は、まず3日間繰り返し、さらに1・2週間後、1ヶ月後・・・同じ箇所を繰り返し勉強しました。「継続は力なり」これで暗記効果抜群です！！

受験を終えた今、一番感謝していることは「周りの人の支え」です。一緒に頑張ってくれる仲間がいなかったら、途中で諦めていただろうし、辛い時もいつも通りの明るい我が家の食卓が私の気持ちを前向きにしてくれました。一人で掴み取った合格ではないことを改めて感じました。後輩の皆さんも周りの人を大切にして、これから始まる受験勉強に励んで下さい。応援しています。

神戸市外国語大学外国語学部英米学科 古田 剛（緑ヶ丘中学校）

僕は3年生になってから文転をしました。ずっと理系だったけど、英語をもっと勉強したいということに気づいて文転することを決めました。やはり授業は理系のままなので、なかなか思うように勉強が進みませんでした。だけど、自分で決断だったし、諦めなくなかったので、自分で時間を作って受験勉強をしました。

もし文転をした人がいるなら、諦めずに目標を追い続けてください。必ず努力しただけの結果はついてきます。

また、僕は野球部に所属していました。引退するまではもちろん部活中心の生活をしていたので、本格的に勉強を始めたのは夏休みからでした。けれど、どんな状況でも部活を言い訳にはしたくありませんでした。部活に注いだ2年半があったからこそ今の自分ができたのであり、その事を否定したくないし、否定されたくもないのでその分勉強に励みました。ぜひ、部活に入っている人は部活をしていたと胸を張りながら受験勉強をして下さい。最後に、自分が第一志望に合格出来たのは親、先生、仲間、全ての人ののおかげです。感謝しかありません。

本当にありがとうございました。

広島大学生物生産学部生物生産学科 古田 真菜（美濃中学校）

大学受験を振り返り、感じたことを書こうと思います。参考になるかは分かりませんが、少しでも皆さんの力になれば幸いです。

高校一年の時の私は、その場しのぎの勉強しかしていませんでした。テスト直前に必死で覚え、終わったらすぐ忘れるの繰り返し、授業中寝てしまうことも多く、今思えば散々な生活を送っていました。当時言われてもなんとなく聞き流すだけでしたが、やはり今になって思うのが、学校の小テストや授業は大事にすべきだという事です。私は長い間それが出来ていなかったの、真面目にやっていたら既に覚えているはずのことを、後になってもう一度一から覚え直さなくてはなりません。これほど非効率的な事はありません。当たり前的事ではありますが、授業だけは真剣に受けて下さい。絶対に受験に生きてきます。

また、私は以前から農学系の学部に進みたいと考えていたので、二年生からのコース選択は迷わず理系を選びました。しかし、私は数学が本当に苦手で、代わりに国語が得意という完全に文系の人間だったので、理系クラスでの勉強はかなりきつかったです。当然苦手科目である数学は他教科より勉強しましたが、実際の入試では得意科目に救われた部分が大いいます。苦手克服はもちろん大事ですが、得意な分野でどれだけ確実に点を稼げるかがとても重要だと思います。私の場合、二次で数学の配点が高く不安も大きかったのですが、その大学に行きたい、という気持ちが強かったので数学からは逃げないと決めました。だから皆さんにも、自分の能力に合わせ志望を下げるのではなく、志望まで自分の力をもっていく気持ちで頑張ってください。

勉強法としては、私は、塾は利用していませんでした、とにかく学校に頼っていました。教材はすべて学校のもので、ひたすら問題を解きました。といっても、実際手を付けたのは基礎の部分がほとんどで、応用をやるよりは、基本を確実に納得するまでやりこみました。センター試験に向けてならそれで十分だし、基礎を固めれば二次にもつながります。また、皆さんにお勧めしたいのが、自分用の見直しノートを作ることです。教科問わず、なかなか覚えられない部分というのが誰しもあると思います。そういう事を自分なりにまとめておくと、後ですぐに確認できるし、実際に書くことで頭にも入りやすいと思います。

最後に、模試は最大限活用しましょう。同じような問題も実際に出ます。やりっ放しなんてもったいないです。ミス一つ一つ、つぶしていけば、のちに大きな自信につながります。

受験勉強は長く、途中でめげそうになることもあると思います。たまには息抜きをして、自分のペースで努力を続けて下さい。皆さんが第一志望に合格できることを願っています。

下関市立大学経済学部公共マネジメント学科 佐野 有郁（桜ヶ丘中学校）

私が、皆さんに伝えたいことが4つあります。

1つ目は小論文についてです。小論文と聞くと、理系の人は「関係ないな」と思ったと思います。しかし、この考えは間違いです。理系の人でも小論文が必要になることがあります。それは、国公立や私立の文理融合学部や教育学部に進学したいときです。また文系の人はさらに小論文が出題される学部が多いです。次に皆さんが思うのは「小論文は配点が少ない」と考える人がいますが、これも間違いです。私の合格した下関市立大学は前期試験は小論文のみで配点は300点です。センター試験は500点で計算されるので比率は高いことが分かります。後期試験になると小論文のみの大学は一気に増えます。また、後期試験に小論文を追加する大学はたくさんあります。そして小論文で皆さんが一番間違った考えをしているところがあります。それは「セン

ター試験後に小論文対策をすれば間に合う」と考える人がいることです。これは大きな間違いです。1か月で小論文は書けません。これは断言しておきます。小論文を書くためには技術だけでなく、知識も必要です。そして、書いた分だけ安定して小論文が書けます。なので、早めの対策をして欲しいとおもいます。私も3年の初めから対策を始めました。対策は学校で行われる小論文模試を受験したり、小論文の先生が関高に来てくださって行われる、小論文の書き方講座です。小論文は一人では対策しにくいものです。専門の方に指導してもらえる模試と講座は特にお勧めです。1人でできる対策は時事問題を新聞やテレビ、ネットで理解しておくことです。小論文の本で書かれていることを鵜呑みにすると、大学側もその書き方を理解しているので、鵜呑みにはしないでください。小論文については以上です。

2つ目は私が下関市立大学を前期に受験した理由です。下関市立大学を考え始めたのは、12月ぐらいに先生との二者懇談でできたことです。最初はあまり出願を考えていませんでしたが、調べていくほどに自分のやりたい内容とカリキュラムが重なっていることに気が始めました。地方の国公立だったのでどうなのかなと思いましたが、内容は特徴のあるものばかりで、出願を決めました。また、小論文模試を受けていたこともあり、出願ができました。そして、地方の国公立は前期、後期試験を全国の主要な都市で受験できます。私も大阪で受験することができました。名古屋で受験できる国公立も多いです。

3つ目は普通の授業についてです。文系には数学の選択があります。数ⅠAのみ授業を行うコースと数ⅡBまで授業を行うコースがあります。私はこの選択を悩みましたがⅡBのコースにしました。このコース選択は間違っていなかったと今になって思います。3年生後半になってくると、入試に必要な授業で、他の授業の勉強をする人もいましたが、それはやめましょう。しっかり授業は受けましょう。結論、私は入試では使わなかった教科がありました。この勉強をしてよかったと思っています。今の時点で3教科の受験を考えている人は授業だけはしっかり受けて、家や塾での勉強を3教科型にしましょう。センター試験を3教科で受ける人はほとんどいません。3教科も5教科も受験料が変わらないからです。センター試験の結果によっては、自分の行きたい大学以上の大学に出願できるかもしれません。そう思って、授業を受けましょう。必要のない教科なんてありません。

最後に言いたいのは、最後まであきらめないことです。私はセンター前最後の模試まで点数が伸びませんでした。国公立はE判定、私立は第三志望までE~D判定でした。そこで諦めていたら今の自分はいません。自分を信じてセンター試験まで勉強しました。その結果、センター試験では総合点がすべての模試より高くなりました。特に日本史では56点から78点まで点数が上がりました。とてもうれしかったです。私は私立の受験方式をたくさん利用したので、前期試験の勉強はぎりぎりになって行いました。最初は間に合うか心配でしたが、毎日小論文を書くことによって、過去の模試を思い出し、小論文の書き方を思いだしていきました。その結果、本番もある程度の緊張感を持ち試験に臨めました。私立も第二志望の大学に合格することができました。しかも、最初に志望していた学部より内容の濃い学部(偏差値の高い学部)に合格できました。

受験前には不安になることのたくさんあります、そんな時にネガティブな言葉を言わないようにしてください。自分はネガティブな言葉は言わないようにしました。そして、友達を励まして受験に臨みました。最後は精神論になってしまいましたが、受験まで不安になるのは当たり前です。そんな時は自分を信じて頑張ってください。

九州大学理学部地球惑星科学科 市川 多恵 (緑ヶ丘中学校)

私が真剣に受験(むしろ勉強)に取り組んだのは、3年の夏でした。しかもその頃は先生方が「この夏休みはとても大事だ」と言い続けていたのに結構聞き流していたし夏のだるさにやる気が出ず勉強しない日もありました。このようにかなりおおまかなことしか書きませんが少しでも参考になれば幸いです。

私がやってよかったと思っていることにオープンキャンパスがあります。大学についてはデータブックやネットで調べることが多くなるかもしれませんが、実際に大学構内に入ると全く違います。私の場合、この大学に在籍して学びたい、生活したいと強く望みました。3年になってから勉強し続けるための良い材料になったと思います。大学を決めるだけでなく、あらゆる学部学科を見たり、教授と直に話したりすることで、それまで全く考えていなかった地学分野を選びました。自分が行きたい大学を見つけることでそのために頑張ろうと時々思えたことも良かったかなと思います。

私は前述の通り3年の途中までそこまで真剣に勉強していませんでしたし、塾にも土曜講座にも行っていません。通信教材もやらなかったというよりやれませんでした。単に続かないことが分かっていたからです。3年間ずっと変わらずに自分のペースで好きなように時間を使えたことは自分によく合っていたのだと思います。ただこれは一歩間違えると全く勉強しなくなってしまう可能性を秘めているのでそのへんは気を付けたほうが良いと思います。

この受験で我が道を進む大切さが身に沁みました。自分の好きな道を自分のために自分勝手に進むことは受験生にとって大切だと思いました。最終的には誰でもなく自分の人生を決めてしまう選択になるかもしれないので、自分が責任をもって1つ1つ決めていくことが大切になるのではないかと思います。

一方で私の受験は母に助けられました。むしろこの結果は母がいてくれたからこそだと思います。私はその母に良い報告をしたくてより一層頑張れました。常に誰かが支えてくれていることを忘れずに頑張ってください。